大同大学の成人式、開催。

1月15日(金)、本学A棟14階ラウンジで、澤岡昭学長主催・同窓会／後援会協賛の成人を迎えた学生を祝う会を開催。奥村博司理事長、澤岡学長をはじめ、同窓会・後援会・教職員が会場に集まったおよそ100人の新成人たちを盛大に祝いました。

今回のサプライズは、昨年10月に情報学部情報デザイン学科 メディアデザイン専攻に着任した、書家・アーティスト 渡部裕子先生のライブ書道。2007年・2008年とアメリカ シアトルで開催されたアートイベント「NorthwestFolklife」に出場し、舞台でライブ書道のパフォーマンスを披露するなど活躍されている渡部先生。先生が筆を持つと、それまで賑やかだった会場が緊張感に包まれ、"ぴーん"と張り詰めた空気が流れた。先生が全身をつかって書きはじめると、学生たちは息を呑み、一緒になって点・線・擬ねを書いているようにも見えた。作品が完成すると、会場からは"はぁ"と息が漏れ、そして"わぁー"と歓声が上がった。

今回書かれた字は「対峙」。逃げ道をつくらず、自分自身と向き合う時間を持つことはより良い将来に繋がると、文字に込めたメッセージを新成人たちへ送りました。

復活して今回で3回目を迎えた「大同大学の成人式」。いつにも増して、参加者の内なる何かに触れるものになったように思います。

新刊書出版

『磁石のふしぎ』-新コロナシリーズ56-

共著：茂吉雅典 講師
（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）
早川謙二 講師
（情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻）

茂吉先生

早川先生

磁石の歴史や身近な使用例を紹介した一冊。「何度割っても磁石は磁石」「強力磁石で可能になった磁石式入れ歯」などのテーマもあり、中学生でも読み進められるようわかりやすい言葉で解説しています。電気系の"初歩の初歩"の本になっており、身のまわりのもので簡単に行える実験や体験を通して、磁石の世界がおもしろくなる入門書です。

発行所：コロナ社
発行日：2010年3月
定　価：1,050円（税込）

DAIDO UNIVERSITY CAFE. vol.14 DU CAFE.

●地球のどこかで～第2回ドイツ編～

09年冬 山口雅生(DUP/工学部 建築学科 建築専攻1年)

1月3日(日)～10日(日)まで、五島利兵衛教授(工学部 建築学科)のケルン大聖堂の調査の手伝いでドイツのケルンへ行きました。ヨーロッパは今回が初めてで、行く前から非常に楽しみでした。

ケルン大聖堂

調査はもちろん教会側に許可を取ります。そのため一般の人が入れないような場所へも入ることができます。ケルン大聖堂の中はまるでハリーポッターのような世界で前回のアンコールワットとは違う神秘的な印象を持ちました。また、教会に来る人々を見ていると欧米人と日本人の宗教感の違いにも気づかされます。日本人にとって寺や神社が生活の一部だという人はあまりいませんが、ケルンの人々にとって教会は生活の一部なのです。またケルン大聖堂は構造や装飾の面においても非常にすぐれているので、これらを見るだけでも大変勉強になりました。

ドイツについて

ドイツの町並みは非常に規則正しく、ホテルや商店はもちろん仕事場のオフィスまでとてもきれいでした。また、人々がインテリアや芸術に高い関心を持っているため、センスのいい小物や建造物、オブジェが町に多くあります。食べ物では、肉とパンと芋が基本らしくあまりサラダが出てきません。また、ジャガイモとリンゴそしてソーセージの「天国と地獄」という面白いメニューもありました。

実際に教科書で見た建物を見ると、とても感動しました。建築学科の学生だから注目できる構造的な見方もできます。ぜひみなさんも行ってみてはいかがでしょうか?

人　事

●退職 【大　　学】＜事務職員＞ (H21.10.31)
神谷登司雄（大学事務部 学務室 主任部員）

●採用 【法人本部】＜事務職員＞ (H21.12.1)
河村　安徳（法人本部 経理室）

【法人本部】＜事務職員＞ (H22.1.1)
冷水　孝夫（法人本部 副本部長）
鈴木美喜男（総務部 総務室 主任部員）

【大　　学】＜事務職員＞ (H22.2.1)
錦織　　整（大学事務部 教務室）

●異動 【大　　学】＜事務職員＞ (H22.1.1)
安田　英基（大学事務部 学務室 兼 大学事務部教務室）

編集後記

3月18日に学位記授与式がありました。
その翌日、ラグビー部の追い出しコンパを開き、ふたりの卒業を祝いました。
平日にもかかわらず、そのコンパには4人のOBが参加してくれました。
私は最後、泣いている卒業生に言いました。「卒業して7年と10年になるOBが今日は来ています。わかってると思うが、これからやで！」って。

大同大学 DAIDO UNIVERSITY
DAIDO CAMPUS No.70 2010年3月31日発行（季刊）
編集・発行：大同大学入試・広報室 〒457-8530名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117 FAX052-612-0125
E-mail koho@daido-it.ac.jp URL http://www.daido-it.ac.jp

DAIDO CAMPUS

2010.3 No.70

大同大学
DAIDO UNIVERSITY

平成21年度 学位記授与式

3月18日(木)、本学石井記念体育館で、学位記授与式を挙行。
学部生612名、大学院生29名、委託生1名が大同大学を巣立ちました。
卒業生たちの成長は、厳粛な表情に確かに表れ、輝いていました。

学長告辞(要旨)

卒業生諸君、卒業おめでとう。

学部卒業や大学院修了のよろこびは、君たちの努力の賜物であるばかりでなく、ご父母はじめ、周囲の皆様のあたたかい支援の賜物であると、敬意を表し、関係の皆様に対し、心からのお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

私は30年前から宇宙の仕事を続けています。宇宙開発で一番大切なことは、待つことに耐えることです。もう直ぐ完成する国際宇宙ステーション計画に参加した時、完成まで12·3年程度と考えていました。しかし、実際には25年がかかりました。運が悪ければ、10年間、情熱を傾けた仕事が実らず、会社の命令で全く別の仕事に変わってゆく仲間を沢山みてきました。つくづく人生は分からないものだと思います。何歳になっても、やりたいこと、考えていること、気持ちは二十歳の頃とほとんど変わらない自分に驚くことがあります。君たちが何歳になっても、気持ちが大きく変わることはないと思います。今の自分を大切にしてください。やりたいことに出会ったら、燃えてください。人生は燃えるための準備期間と燃焼の繰り返しなのだと思います。どんな時代になっても、自分を磨いてゆくことが何よりも大切です。どうぞ、自分を大切に、自分流の素晴らしい人生を送ってください。学生時代の友達は一生頼りになる財産です。どうぞこれからも友達を大切にしてください。

どのように変わろうとも大同大学は君たちにとって一生頼りになるふるさとです。大同大学は、もう一度勉強する場として、相談にのってくれる場として、いつでも扉を開いています。健康に気を付け、困難を笑って乗り越え、元気で愉快な人生を送られることを、心から願って、告辞とします。

平成22年3月18日
大同大学長　澤岡　昭

【学長賞】(学　部)

学科	氏名	指導教員
機械工学科	伊藤祥雄	(指導教員／山田喜一)
機械工学科	古畑直紀	(指導教員／堀美知郎)
ロボティクス学科	後藤弘旭	(指導教員／尾形和哉)
ロボティクス学科	星元大義	(指導教員／大嶋和彦)
電気電子工学科	河内将成	(指導教員／佐藤義久)
電気電子工学科	小川　晃	(指導教員／稲熊幸雄)
建築学科	清水恵那	(指導教員／稲垣卓造)
建築学科	構田雄介	(指導教員／五島利兵衛)
建築学科	松本公佑	(指導教員／宇野 享)
都市環境デザイン学科	神道拓男	(指導教員／嶋田喜昭)
都市環境デザイン学科	浜野寛太	(指導教員／嶋田喜昭)
情報学科	平田和也	(指導教員／遠藤敏夫)
情報学科	大原直人	(指導教員／川戸和英)

【三好賞】(学　部)

学科	氏名	指導教員
機械工学科	清水勇樹	(指導教員／山田喜一)
ロボティクス学科	松山祥紀	(指導教／西堀賢司)
電気電子工学科	代田俊弥	(指導教員／稲熊幸雄)
建築学科	谷内有希	(指導教員／宇野 享)
都市環境デザイン学科	川崎健太	(指導教／大東憲二)
情報学科	筧　仁美	(指導教／定國伸吾)

【学長賞】(大学院)

専攻	氏名	指導教員
機械工学専攻	青木　大	(指導教員／山田喜一)
機械工学専攻	屋敷昇吾	(指導教員／西堀賢司)
電気･電子工学専攻	鈴木尭志	(指導教員／佐藤義久)
電気･電子工学専攻	森本浩紀	(指導教員／佐藤義久)
建築学専攻	磯谷勇介	(指導教員／宇野 享)
都市環境デザイン学専攻	齋藤知一	(指導教員／堀内将人)

卒業パーティ

学位記授与式が終わると、
次は名古屋観光ホテルで卒業パーティ。
卒業生・教員、ほぼ全員が参加、
想い出を語り合いました。

学生の勇姿!

吹奏楽団

第24回定期演奏会

3月5日(金)、大府市勤労文化会館「もちのきホール」で、大同大学吹奏楽団第24回定期演奏会を開催しました。

この演奏会のスタートを切ったのは、川戸 和英教授（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）作詞、片岡智幸吹奏楽団顧問作曲の大同大学応援歌。作詞の経緯を川戸教授が「大同大学のことを考えていたら頭の中に詞が浮かび上がってきた。まだ、できたばかりで知らない人は多いと思いますが、広めてもらえるとうれしいです」と説明した後、吹奏楽団が演奏・合唱しました。

第1部シンフォニックステージでは「Overtura」「Follow the River」「IVANHOE」を演奏しました。「Overtura」の演奏終了後には、奥村博司理事長が「学園創立70周年を機に、大同工業大学から大同大学に名前が変わって新しくなりました。今日はどんな企画があるか楽しみです」と挨拶しました。

第2部は本演奏会の名物、企画ステージ。今年のタイトルは「DAIDO QUEST」。突如異世界へ飛ばされてしまった3人の普通の大同生。襲い来るモンスターを倒しながら、見事魔王を倒せるのか!?といった内容で、笑いあり、演奏ありと大いに盛り上がりました。

最終ステージの第3部ポップスステージは計4曲。「オーメンズ・オブ・ラブ」「宇宙のファンタジー」の2曲終了後に、今年度団を引っ張ってきた、団長代理の田中陽介君（工学部 機械工学科3年）が、「今までみんなの助けがあってここまでこれました。一年間いろいろあったけど頑張りました。ありがとうございます。」と団員と来場者にお礼を述べ、ラストの曲「ムーン・リバー」と「パイレーツ・オブ・カリビアン」を熱奏しました。

テレビ、ラジオ、記念式典と大活躍!

12月8日(火)放送、メーテレのバラエティ番組「アクセルビリー」で、ファンファーレ演奏の依頼を受け、トランペッターの田中陽介君（工学部 機械工学科 先端機械工学専攻3年）と櫻井一真君（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻2年）が参加。ロバートやアンタッチャブルらと共演しました。

また、3月5日に開催した第24回定期演奏会をPRするため1月23日(土)、FM愛知の「Charge Your Heart」内の「元気な街ネタ・元気な学生」コーナーに、岩本佳奈さ（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻1年）と松本陽平君（工学部 機械工学科 機械工学専攻1年）が出演。パーソナリティの内藤聡さんと共演しました。さらに、3月9日(火)には南区新瑞橋にオープンした、イオン新瑞橋店からオープニングセレモニーの演奏依頼を受け、金管楽器のパートが参加し演奏。オープニングセレモニーを華々しく飾りました。

吹奏楽団は、学位記授与式や入学式などの学内行事だけではなく、地域からの演奏依頼にも積極的に応えています。

▲アクセルビリーでのワンシーン

高木基充研究室 村木翔伍くん
（情報学部 情報学科 メディアデザイン専攻4年）

デッサン作品を本学年賀状デザインに採用!

平成22年の年賀状デザインに村木くんがデザインした「トラ」を採用しました。この他にも絶滅が危惧されている動物のデッサンがあり、今後の展開が期待されます。

学生の勇姿!

西堀賢司研究室（工学部 ロボティクス学科）・ロボット研究部

「からくり改善くふう展」への出展が雑誌で紹介。

10月21日（水）・22日（木）の2日間、社団法人 日本プラントメンテナンス協会主催の「第9回からくり改善くふう展」が名古屋市港区のポートメッセなごやで開催されました。トヨタ自動車やマツダ、デンソー、アイシン精機などの企業の他、今回初めて、タイの企業と大学（本学）が参加しました。このときの様子が「Close Up! 第9回からくり改善くふう展 見てある記レポート」として日刊工業新聞社の雑誌「工場管理」の12月号73～75ページに掲載されました。その中で西堀研究室が出展・実演した「空中ブランコロボット」も紹介されました。

なお、この「くふう展」では特別賞を受賞しました。

大同大学「空中ブランコロボット」
人形が空中ブランコのように、うんていを次々とのぼっていく。

空中ブランコロボットについて説明する山本貴大君（4年）

「第16回名古屋モーターショー あいちITSワールド2009」にブース出展!

11月20日（金）～23日（月・祝）の4日間、西堀研究室とロボット研究部は合同で、第16回名古屋モーターショーあいちITSワールド2009にブース出展し、二足歩行ロボットと多足歩行ロボットのデモンストレーションや操縦体験、空中ブランコロボットとサッカーロボットの展示を行いました。

ロボット研究部は21日（土）に、小学生を対象とした歩く恐竜ロボットを作る工作教室を開催し、子どもたちのロボット作りをサポートして、参加した20人全員が無事完成させることができました。

22日（日）、23日（月・祝）はステージで、愛知工業大学と共催の二足歩行ロボットによるバトル大会を行いました。22日は1.8kg以下のロボットで選抜大会を勝ちあがった15台のロボットがあつまり全国大会を行いました。

23日は無差別級ロボットバトルで本学、愛知工業大学などの学生や一般参加の社会人ら10台が参加するなか、ロボット研究部の結城 賢君（3年）が操縦するロボット「建御雷神」が見事優勝しました。

両日とも手に汗握る戦いを繰り広げ、ステージの周りには見学者の壁でロボットが見えないほど大盛況でした。

▲ロボットバトル

▲空中ブランコロボットの実演

「あいち次世代ロボットフェスタ2010」に出展!

1月8日（金）・9日（土）の2日間、ウインクあいち6階展示場で愛知県主催「あいち次世代ロボットフェスタ」が開かれました。

このフェスタは、ロボット関係機関の次世代ロボット市場化を支援し、次世代ロボットの市場形成・地域の活性化に繋げるとともに、多くの企業・大学・研究機関等の情報交換の場とし、技術の開発促進と産業の振興を図るもの。

西堀研究室は、開発した技術の製品化・商品化に賛同してくれるビジネスパートナーを求め、「空中ブランコロボット」を出展しました。

▲西堀教授㊧

松山祥紀君（工学部 ロボティクス学科4年）

中日新聞に掲載されました。

ロボット研究部 松山君のロボットを操縦する写真が、中日新聞1月30日（土）の夕刊7面「若者Eye」に掲載されました。この写真は愛知県主催で1月8日（金）・9日（土）に開催された「あいち次世代ロボットフェスタ2010」で撮影されたもの。西堀研究室のロボット展示・実演中の姿が撮影、掲載されました。

▲中日新聞夕刊（1月30日）

お笑いサークル

始動!

12月13日（日）、岡崎パブリックサービス主催、岡崎市・岡崎教育委員会後援の「落研寄席」が、岡崎市甲山閣で開演されました。

県内の7つの大学から中部を代表する学生芸人が集まり、落語・漫才・漫談・大喜利を披露。

本学は、「ホンケー×ホンケー」「オールマイティー」「ジャイアン」と題して、3つの漫才を披露し、会場をたくさんの笑いで和ませていました。

今回は、小学6年生「チビッ子落語家、初高座」もあって、入場整理券が必要なほど大盛況でした。

学生の勇姿!

佐藤義久研究室（工学部 電気電子工学科）

キャンパスベンチャーグランプリ中部で2年連続の受賞

中部の学生による新事業提案コンペ「キャンパスベンチャーグランプリ中部」において、吉嶺和哉さん、村井一哉さん（大学院 工学研究科 修士課程1年）、河内将成君、木村啓吾君（4年）が提案した「Threw the wind ～小型風力発電普及作戦～」が応募総数171件の中から見事、特別賞／中部経済産業局長賞に選ばれました。

このテーマには、4人のほか研究室員12人が協力。研究室が一体となって、この栄冠に輝きました。佐藤研究室は昨年「努力賞」に選ばれており、2年連続の受賞です。

2月2日（火）、名古屋マリオットアソシアホテルで、表彰式が行われ、澤岡昭学長と指導教員の佐藤教授が彼らを祝いにかけつけました。

また、3月17日（水）には、学長賞が授与されました。

宇野 享研究室・加藤和雄研究室（工学部 建築学科）

「開府500年のまちの姿懇談会」で河村たかし名古屋市長にプレゼンテーション

2月7日（日）、名古屋市公館で「第2回開府500年のまちの姿懇談会」が開催され、宇野研究室と加藤研究室が参加。それぞれプレゼンテーションを行いました。

この会は、2010年に名古屋開府400年を迎えた記念事業の一環として、開府500年（100年後）の名古屋のまちの姿について提案・議論するもの。河村市長ら懇談会委員が参加され、活発な意見交換がなされました。

宇野研究室は「パラサイト・アーキてくちゃ」と題して、再開発のような、大規模なまちづくりではなく、既存のまちをサーベイして、現況に「小さな仕掛け」を付加することにより、その場所固有の潜在的なポテンシャルを高めていくような新しい都市再生手法の可能性について提案しました。また、加藤研究室は「体感都市・名古屋」と題して、子どもからお年寄りまで、誰もが体感できる、愛着がもてる、100年後の名古屋の未来像を展望するうえでの着眼点を、全体像から身近な部分にわたり提案しました。

会には、NHKを始め、東海テレビ・CBCと報道関係者も多数参加していましたが、緊張することなく、自分たちのアイデアをプレゼンできる喜びを噛みしめながら、一生懸命に伝える学生たちの姿がそこにありました。

▲懇談会委員との質疑応答

▲懇談会終了後、河村市長と記念撮影する加藤研究室

▲宇野研究室のプレゼンテーション

犬飼貴之さん・山本篤志さん（大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻1年）

設計コンペ「Low Carbon Life - design Award2009」で佳作受賞

授業「建築環境学特別演習2」の課題として、設計コンペ「Low Carbon Life - design Award2009」に犬飼さんと山本さんがエントリー。彼らが提案した「Solar Furniture S×F House」が、407件もの応募から見事、佳作に入賞しました。

このコンペは、「2020年までにCO_2等の排出量25%削減」という目標を実現するために、世の中にデザインの力で低炭素型ライフスタイルを大胆に提案していくというもの。今年のテーマは「ウォームシェア・スペース～いっしょにあったまろう。～」。冬の間、過度な暖房に頼らず、自然に人が集まり温かさをシェアできる「新しい人間空間」を募集し、プロ・アマ・個人・企業を問わず広くデザイナーを対象として、参加が呼びかけられたもの。

彼らは、先生からのアドバイスを受け、お互い小さなアイディアを出し合い、全てのアイディアを否定せず、その量を重視する「ブレーンストーミング」という方法で、今回の作品を生み出しました。

表彰式では、同じ受賞者に現在第一線で活躍しているデザイナーもいて、今回の受賞の光栄さを再確認したふたり。人々の笑顔を創れる「建築家」を目指したいと力強く話しました。

▲山本さん

学生の勇姿!

伊藤史哉君・黒野領太君（工学部 建築学科3年）

主張する「みせ」学生デザインコンペで特別賞受賞

学生デザインコンペ『主張する「みせ」』において、伊藤君と黒野君が見事、特別賞を受賞しました。

このコンペは、社団法人 商業施設技術者・団体連合会が主催するもので、今回が 7 回目。11 月 5 日（木）から 12 月 10 日（木）までの募集期間に集まった作品は全国から 373 点。その中から伊藤君と黒野君の作品はそれぞれ、受賞作品 33 点に選ばれました。彼らは、本学建築学科 3 年後期の授業「プレゼンテーション演習 2」の課題として、このコンペに参加。本学からは 11 人がこの課題に取り組み、コンペに応募しました。作品展示会は 1 月 15 日（金）から 1 月 20 日（水）、表彰式は 1 月 20 日（水）、いずれも建築会館（東京都港区）で行われました。

黒野君の作品タイトルは「思い・ストリート〜未来への贈り物〜」。街のストリートにタイムカプセルを埋め込み、人の『思い』を入れる。街自体が人の思い出という品物を預かる『みせ』となる。人は何かに思いを込めれば込めるほど、愛着を抱くもの。タイムカプセルに自分の思いを埋めることで愛着が生まれる。それは街へと移り変わっていく。ゴミのポイ捨てなどはなくなり、街はきれいになっていく…がコンセプト。

加藤和雄先生からは、社会性や環境性、文化性にどうかかわっていくか、またビジネスとしてどう展開するかなどについてアドバイスを受けました。

作品展示会では、他作品のさまざまなアイディアに刺激を受けた黒野くん。今回の受賞に満足することなく、これからもコンペに参加し続け、さらに刺激を受け、成長していきたいと力強く話してくれました。

▲伊藤君

▲黒野君

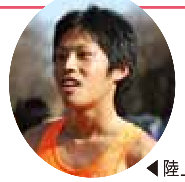
ハンドボール部

第10回石井健一郎杯 大同フェニックスカップに協力!

2月20日（土）・21日（日）、東海市民体育館で「石井健一郎杯 大同フェニックスカップ」が開催されました。第1回大会（2000年）は7チームの参加でスタート。10回目を迎えた今回は全国から42チーム（およそ550人）の参加がありました。

この大会の運営に本学、そして大同高校ハンドボール部は毎年、協力サポートしています。

DAIDO UNIVERSITY CAFE. vol.12 DU CAFE.


◀陸上部に所属していた蔵居さん

●挑戦！

蔵居 慧之（大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻1年）

長期休暇になると現実逃避したくなるので旅行に出ることにしている（笑）。

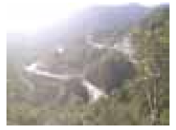
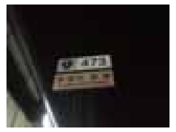
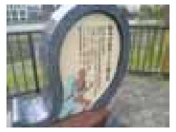
今年の冬休みもどこに行こうかと考えている時、友達が自転車の旅をしたと聞いた。すごいと思いつつも自分も負けられないと思い、走って大阪まで行くことにした。名古屋から大阪までは距離にしておよそ200km。5日間かけて走破する予定で、一日40km前後走ることにした。

いざ自分の足で走ると普段の電車や車の旅行とは全く違うものが見える。特に二日目の東海道の宿場町「関」に泊まることにした時は、まだ町に江戸時代の雰囲気が残っていて名古屋から走ってきた自分にとっては普段の旅行以上に江戸時代にタイムスリップした感じだった。三日目に入ると足がパンパンになり歩く時でもおかしくなっていたが、道路標識が今までずっと「大津」までの距離表示だったのが「京都」になり目標が見えてきてうれしかった（距離表示は数少ない楽しみ）。その後、三日目は草津、四日目は京都に泊まり、最終日は足が限界に達していたが大阪まで走りきった。

5日間天気も良く、ほぼ予定通りに完走でき、いい思い出になった。現在の旅や出張では電車や車の移動は当たり前で、国内であればその日のうちに目的地に着くが、昔は何日もかけての移動だったし鈴鹿峠では山賊が出るという噂もあったほどなので本当に大変だったと思う。

これから普段乗り物に乗る時にはその技術力に感謝し、また自分は技術者になりたいので、ものづくりの現場に携わってからもその気持ちを忘れないようにしたいと思った。

スタート → 三重県 → 三重と滋賀の県境。鈴鹿峠 → 滋賀県草津 → 京都市 → 東海道の終わり。三条大橋 → 清水寺 → 東寺 → 大阪駅

学生の勇姿

学生の勇姿!

平成21年度 クラブ活動結果報告（抜粋）

空手道部
●**秋季東海地区大学空手道選手権大会**（10/12）出場

弓道部
●**中日本近的大会**（9/13）
個人決勝予選進出（M07千賀亮）
団体4位入賞（D08松谷朋恵、B08中島瑞穂）
●**新人戦**（12/5〜12/6）
団体戦準決勝進出（M08後藤啓佑、A08平山奨悟、M09大澤正嗣、M09纐纈嘉彦、E09住田達哉）
●**第1回南支部新年射会**（1/11）団体1位（D08松谷朋恵）
●**三十三間堂大的全国大会**（1/17）出場（A08平山奨悟）

剣道部
●**東海学生剣道優勝大会**（9/13）2部予選リーグ3位

硬式テニス部
●**東海学生春季テニストーナメント大会**（4/18〜5/9）
決勝進出（E08福留亮平）
準決勝進出（R08佐野充）

硬式野球部
●**愛知大学野球連盟春季リーグ戦**（4/4〜6/2）出場

サッカー部
●**愛知学生サッカーリーグ戦**（4/4）出場

自動車部
●**全中部学生ジムカーナ選手権**（5/31）
団体総合1位（M06保田久志、M07鈴木太良、C07小澤博司）
女子の部個人1位（MA09松原未貴）
●**学生ドリフト王座決定戦東大会**（7/26）
総合3位（M06河村真太郎）
●**全日本学生ジムカーナ選手権**（8/17〜8/18）
団体16位　個人 9位（M06保田久志）34位（C07小澤博司）
●**全日本学生ダートトライアル選手権**
団体18位　個人 65位（A06樋口哲也）
●**キョウセイジムカーナシリーズ第7戦**（10/25）
クラス内7位（MA09松原未貴）クラス内8位（C07小澤博司）

スキー部
●**東海学生基礎スキー選手権大会**（2/23〜2/28）
個人戦　シュテムターン1位　総合1位（E08兵頭徹）
総合斜面大回り1位（R06田谷竜兵）
●**全国学生岩岳スキー大会　基礎の部**（3/1〜3/6）
総合滑走 67位（M06酒井将嗣）
●**全国学生岩岳スキー大会　アルペン競技の部**（3/15〜3/21）
新人戦　55位（E08兵頭徹）43位（R06田谷竜兵）

漕艇部
●**中部学生選手権大会**（6/27〜6/28）
ナックルフォア優勝（E09神谷真大）
●**市民スポーツ祭**（8/1〜8/2）
優勝（A06野間路映、B07松浦侑紀）
準優勝（B08伊奈幹起、R08西脇公洋）
●**名古屋レガッタ**（10/4）
準決勝進出（B07松浦侑紀、R08西脇公洋）

男子バスケットボール部
●**東海学生バスケットボールリーグ戦**（8/11〜8/26）出場

バドミントン部
●**東海学生バドミントン選手権大会**（4/6〜4/24）出場
●**東海学生新人バドミントン選手権大会**（12/7〜12/18）
団体戦5部リーグ　4位

バレーボール部
●**西日本バレーボール大学男子選手権大会**（6/25〜6/28）出場
●**東海大学男女バレーボール選手権大会**（6/13〜6/14）3勝1敗
●**東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会**（9/19〜9/20）
5勝1敗
●**秩父宮賜杯全日本バレーボールリーグ大学男子選手権大会**
（11/30〜12/6）出場

ハンドボール部
●**東海学生ハンドボール春季リーグ戦**（4/5〜5/10）
4位　優秀選手（C06山村将晃）
●**東海学生新人戦**（6/21〜6/28）4勝2敗
●**西日本インカレ**（8/26〜8/30）ベスト8
●**秋季リーグ戦**（9/5〜9/27）
優勝 最優秀選手賞（M06比嘉傑）
ベストセブン（A06小田淳平、A06構田雄介、R06畑地俊介）
得点王（A06小田淳平）
●**全日本学生ハンドボール選手権大会**（11/7〜11/11）出場

モーターサイクルスポーツ部
●**第27回ライディングスクール**（5/31）成功
●**津保川サーキット走り屋走行会**（11/22）
5位（M06福嶋勇希）

陸上競技部
●**東海学生陸上競技秋季選手権大会**（10/10〜10/11）
砲丸投げ10位（M09小幡晶彦）

レーシングカート部
●**SLカートレース　レインボーカップ第4戦**（6/28）
優勝（M08葛西佑紀）
●**SL中日本カートレースシリーズ第5戦**（8/1〜8/2）
決勝ヒート8位
●**鈴鹿選手権シリーズ第6戦カートレースin SUZUKA**
（8/14〜8/16）出場（M08葛西佑紀）
●**全日本学生対抗選手権**（9/19〜9/20）
決勝ヒート2位（M08葛西佑紀）

E・D・P・S部
●**GOOD COMIC CITY 16**（8/30）参加

音楽研究部
●**若宮野外ライブ**（9/18）
●**もちの木野外ライブ**（2/20）

吹奏楽団
●**伊勢湾台風50年市民防災の集い**（8/15）
●**名古屋祭りフラワーカーパレード**（9/5）
●**定期演奏会**（10/17）

FILM部
●**卒業式・入学式・レガッタ大会・体育祭 撮影**

水泳同好会
●**部内計測会**（7/18）

ダンス同好会
●**第45回種目別戦**（6/21）
タンゴ1位　スロー2位　総合2位（R08岩田宗也）
●**西日本学生競技ダンス選手権モダン戦**（10/25）
ワルツ・クイック2位 総合2位（E09池富勇輝）
クイック準決進出（A09吉田陵平）
●**西日本ラテン戦**（9/27）
パソドブレ3位 チャチャチャ4位(R08岩田宗也)
●**第45回八種目戦**（9/13）
ワルツ・クイック・ルンバ・総合1位（E09池富勇輝）
総合2位（R09松村光）
ルンバ準決勝進出（M09窪田裕)（A09小林裕司）
ワルツ・クイック・ルンバ準決勝進出（A09吉田陵平）
●**中部学生競技ダンス連盟学年別戦**（1/24）
2年生の部　総合1位　タンゴ2位　サンバ3位（R08岩田宗也）
1年生の部　総合1位　チャチャチャ1位（E09池冨勇輝）
総合4位　クイックステップ1位（A09吉田稜平）
総合5位　ルンバ2位（R09松村光）

テーブルゲーム研究部
●**合宿**（8/29〜9/1）

漫画研究部
●**コミックマーケット**（12/28〜12/30）参加

フットサル同好会
●**ビギナーズ大会**（4/18）4勝
●**109CUP**（7/19）4勝

ラグビー同好会
●**東海学生ラグビーリーグ戦**
（9/27〜11/29）出場

ロボット研究部
●**ロボファイト9**（5/9〜5/10）
SRCO優勝（R07小出真澄）
SRCU優勝（R06松原広司）
●**第15回ROBO-ONE**（5/3〜5/4）ベスト16（R07大竹章司）
●**小型ロボット競技大会**
『robotcometitionseries"BRAVE"』
第8回大会（9/13）
個人戦準優勝（R08竹内亘）
●**第16回ROBO-ONE**（9/26〜9/27）
本戦出場（R07結城賢）
●**ロボファイト10**（10/10〜10/11）
本戦ベスト16　2ON2優勝（R07大竹章司）
本戦準優勝（R07岡部兼弘）
●**ロボコング11**（1/16）
準優勝（E08浜砂統一）ベスト4（R08井田勝也）

卓球研究会
●**愛知県新春卓球新人大会**（1/9〜1/10）出場

模型研究会
●**エイデン柴田店ガンプラコンテスト**（2/28〜4/13）
2位（B07森祐介）
●**モデル・カーズ・コンテスト**（5/1〜7/25）
入選（一般クラス）
●**第12回全日本オラザワ選手権**（9/1〜12/25）
雑誌掲載

軟式野球部
●**東海軟式野球連盟　秋季大会**
（8/24〜9/18）出場

フィットネス研究会
●**第12回鈴鹿シティマラソン**（12/20）完走

ソフトボール研究会
●**練習試合**（8/18）

ストリートダンス研究会
●**矢場スキル**（6/22）ダンスバトル　ベスト4
●**名城バトル**（6/29）ベスト8

文芸研究会
●**第9回スーパーダッシュ小説新人賞**
（10/25〜1/15）参加

※成績結果報告書提出分から抜粋して掲載しています。

学科・専攻ニュース

工学部 都市環境デザイン学科

「防災まちづくりをすすめる会」との防災研修会を開催

2月27日(土)、弥富市在住の方で組織されている「防災まちづくりをすすめる会」のメンバー7人を迎え、本学白水キャンパス会議室で、防災研修会を開きました。

この会を開いた経緯は、昨年まで「弥富市都市計画マスタープラン策定委員会」の委員を務めていた嶋田喜昭准教授が市民委員として出席しておられた「防災まちづくりをすすめる会」の代表と知り合い、防災についての勉強をさせてほしいという依頼を受けたことがきっかけ。本学からは、嶋田准教授のほか、大東憲二教授と鷲見哲也准教授、そして大学院生3人が参加。鷲見准教授は「水害と向かいあう」と題して、佐用町豪雨を例にゲリラ豪雨への備えやスーパー伊勢湾台風を想定した高潮についてを、また大東教授は「愛知県西部の地盤沈下と地下水利用について」と題して、濃尾平野における災害時生活用水としての地下水利用の提案や PSInSAR を用いた濃尾平野の地域的および季節的地盤変動特性の評価についてレクチャー、そして質疑・討論しました。

会の皆様からは「非常に勉強になった」と喜ばれるなど、有意義な研修会となりました。

▲大東教授

▲鷲見准教授

北九州市立大学の「環境問題事例研究調査研究発表会」で発表

「都市環境プロジェクト実習」は1チーム4～6人に分かれて、それぞれの調査研究テーマを決める。そのテーマは、地域の環境関連問題から学生が自主的に選びます。調査研究活動は学生たちの自主的な学習活動と位置づけ、現地調査・資料調査・聞き取り調査等を行います。最終的には発表用パワーポイント、ポスター、概要資料の3種類を提出、最終報告会(オーラルプレゼンテーション・ポスターセッション)を行う1年後期の授業です。

その授業で今回、最優秀に輝いた本学チームが、1月14日(木)に北九州市立大学で開かれた「環境問題事例研究調査研究発表会」に招待され、およそ250人の聴衆を前にプレゼンテーションしました。

工学部 建築学科

異文化との交信「C−Scape」

本学とミラノ工科大学の学生が、問題を抱えている実際の建築や街を対象とする課題に取り組み、お互いの提案を情報交換し、切磋琢磨しあう「C−Scape」。これは本学科3年後期に展開される授業です。

今回でProject3を迎えました。

Project1は「芸術家のための集合住宅計画inミラノ」。

Project2は「新進芸術家のための劇場と集合住宅計画inローマ(FENDI財団よりの提案依頼課題)」。

そしてProject3は、「商業空間と居住空間が共生する集住態計画in大須」だ。

1月31日(日)から2月9日(火)まで、本学 笠嶋泰教授、宇野享教授と4人の学生がミラノ工科大学を訪問し、ワークショップに参加しました。ミラノ工科大学学生の提案は、街や国の特徴を捉え、その場所の民族やアイデンティティを追及するものでした。それに対して本学学生は、他にはない新鮮で独創的なアイデアを提案しました。

このProjectで本学学生たちは、ミラノの教員・学生、そして課題(教育)に触れ、また感じることで、文化・国家・民族など今まで考えることのなかった部分を見つめることができる良い機会を得ることができました。

▲「日本の最近の住宅事情」を説明する笠嶋教授

▲プレゼンテーションする杉山博紀さん
(大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻1年)

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

名古屋栄の「テレピア」にてファザードバナーを制作・展示

この度、テレピアと本専攻3年生(伊藤翔平君、林 和美さん、小山崎葵さん、飯田拓也君、中山祥文君、竹内志織さん)の協力によって、ファザードバナーが制作・展示されました。

学生たちは、テレピアのエントランスという吹き抜けの巨大スペースに、季節とテレピアが持つイメージをオーバーラップさせ、素晴らしい作品をデザインしました。

授業内で取り組んだ課題とはいえ、優秀作品のみが展示されるとあって、いい意味での競争意識がレベルの高い作品の完成へと結びついたのでしょう。

会期／2月13日(土)～3月31日(水)
会場／テレピア:名古屋市東区東桜1−14−27

メディアワークプロジェクト

メディアワークプロジェクトとは、グループで協力して作品を制作していく授業です。そしてこの授業の特徴として、メディアはあまり限定されていません。イラスト、音楽、動画、工作など自由に選択できます。グループを決める方法はさまざまですが、私の場合は学籍番号の下一桁の同じ人で組むというものでした。

この授業ではテーマがあり、今回は「日本+?」。これは日本と何かを組み合わせてメディアを制作するということになります。私のグループの場合、「日本+SF」をテーマとし、そこからテーマに合致するかぐや姫を使って制作しました。他のグループは蝶、水、灯、季節、創作文字など多種多様。自分が思い描く作品を制作したいと願っていた私には、とてもやりがいのある授業でした。作品は、作品展として2月3日(水)までユメディオに展示されました。

伊藤彰浩(2年／アルバム委員会)

工学部 ロボティクス学科

レゴロボット競技会が熱い!

1月、ブロック玩具レゴを利用した自立走行ロボットを製作する授業「ロボット創造実習」で、学生たちの努力の成果を競い合う「レゴロボット競技会」が開かれました。

この競技会は、3分間でフィールド内の球をどれだけ多く回収できるか、またゴール地点に持ち帰れるかをポイント制で競うもの。手でロボットを触ると減点される。学生たちは2人チームでタッチセンサや光センサなどを搭載した独自のロボットを製作し、競技に挑んだ。会場は、奇跡やハプニングの連続、だから盛り上がる。今回特に印象に残ったのは、再チャレンジを申し出る学生。ものづくりに対する学生の熱さを再確認できた競技会となりました。

NEWS

キャリアセンター主催

「第8回自己発見セミナー」特別セミナー

11月30日(月)から12月2日(水)までの3日間、本学ゴビーホールで「第8回自己発見セミナー」特別セミナーを開きました。この特別セミナーでは、本学の卒業生を講師に招いて在学生に「大学の歴史」、「楽しい学生生活を送るには」、「社会で求められる人材」、「幸せな人生とは」など様々な話題について話していただきます。

初日は宮本一男さん（67M）が「好感のもたれる第一印象」として、心理学を交えながら話を展開されました。

2日目は藤田憲一さん（66M）が、企業の採用担当者からの視点で学生に就職活動のアドバイスを、3日目は早川元さん（66E）が、大学時代のクラブ委員長の経験を元に、大学生活について話を展開しました。

各日およそ150人の学生が参加し、自分たちの先輩の話をしっかりと聞いていました。質疑応答では、5人が質問をした所で時間が来てしまい、セミナー終了となりましたが、その後も講演者である先輩の周りには学生が集まり、引き続き質問を投げかける場面が見られました。

▲藤田憲一さん（66M）

▲宮本一男さん（67M）

▲早川元さん（66E）

DAIDO UNIVERSITY CAFE. vol.13 DU CAFE.

●大同LOVE!

石田 洋一（大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻2年）

『…大同大学に来て本当によかった』
卒業を間近に控え、大同大学での6年間を振り返ったときに思った素直な気持ちです。

私の大学生活において、大学内に2つの大切な家がありました。それは、空手道部とクラブ委員会です。私がこの2つに所属した理由は、空手道部には、以前から格闘技をやってみたいという想いがあったという正当な理由からですが、クラブ委員会に関しては、クラブ委員会に毎年ランダムで選ばれた2,3のクラブから数人を生贄に出さないといけない、その徴兵制度に見事空手道部が引っかかり、望んでもいないのに仕方なくといった感じです。

このような経緯で入居したそれぞれの家ですが、どちらの活動も楽なものではありませんでした。しかし、それぞれの家には自分の努力をちゃんと見て認めてくれる仲間が居り、そのことが辛いことでも頑張り抜ける活力となり、次第に辛さよりも、仲間と過ごすことの楽しみが勝っていくようになりました。

学部3年の夏になると、空手道部では部長に、クラブ委員会では副委員長に任命されました。それからはそれぞれの活動の忙しさはさらに増し、責任も大きくなっていきました。しかしそれに伴い、より多くの人たちと知り合うことができ、また自分が家を守る大黒柱になった気分にもなり、さらにやりがいを感じるようになりました。

そして学部を卒業する頃には、それぞれの活動から一応引退はしましたが、こんな楽しい家を出るのはもったいないと思い、大学院に進学してからも時間を見つけてはそれぞれの家に顔を出していました。大学院生になってからもそれぞれの家、そして仲間は私を温かく迎えてくれ、そのことが大学院での研究の励みにもなり、今年無事に修士課程も修了することができました。

大同大学で過ごした6年間では、空手道部とクラブ委員会を中心に多くのことを経験し、それらを苦労しながらも楽しんで取り組むことができました。そのようにできたのは、素晴らしい仲間たちの存在、そして何より大同大学が本当に大好きだったからだと思います。

最後に、6年間お世話になった教授や大学職員の方々、様々な場面で支えてくれた仲間たち、そして大同大学に心から感謝致します。そして卒業後もずっと胸を張ってこう言いたいと思います。『大同大学に来て本当によかった。最高の大学で、最高の6年間だった』と。

▲総代として学位記を授与された石田さん
渾身のガッツポーズ!!

トコトン先生大活躍!

澤岡 昭 学長

中日新聞連載
「宇宙は手の届くところに」

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる「宇宙は手の届くところに」が、昨年の6月より中日新聞で連載されています。

2月に掲載されたミッション9の「宇宙服の話」では、総重量110キロ、14層もの多重構造で成る、宇宙服を紹介。宇宙の真空空間で宇宙服に太陽の光が当たると表面温度は100度以上に上昇。しかし、影の部分はマイナス150度にもなるという過酷な船外活動時に飛行士の命を守ってくれるのが宇宙服です。14層もの多重構造に施された冷却水を流すための工夫や、内側の酸素が外に漏れないようにコートした素材など、宇宙服にまつわる工夫や秘密から、宇宙服一体当たりの値段（なんと約9000万円!）までもが紹介されています。

こちらの連載は、5月までの1年間、毎月第4木曜日に掲載されます。ぜひご覧ください。

文化
ミッション9 宇宙服の話
宇宙は手の届くところに
14層構造で気密や断熱
開発費含め1体100万

▲中日新聞（2月25日）

11月26日（木）	ミッション6	向井千秋さんの話
12月24日（木）	ミッション7	宇宙ごみの話
1月28日（木）	ミッション8	危機管理の話
2月25日（木）	ミッション9	宇宙服の話

佐藤義久 教授（工学部 電気電子工学科）

公開講座「長寿学園」

1月28日（木）、尾張旭市中央公民館で、佐藤教授が高齢者教室「長寿学園」講座の講師を担当。33人の受講生が集まりました。

【受講者の皆さまからの感想】
- ○講座がはじまる前は「エネルギー」というテーマに少し難しそうと感じていましたが、佐藤先生の説明が大変わかりやすく、聞きやすかった。
- ○エネルギーの大切さについて、もう一度見つめ直す、いい機会になりました。
- ○家庭用に太陽光発電を取り入れようと思っていたので、参考になりました。
- ○身近な環境に関するテーマであったので、長寿学園（講話）だけでなく、もっと広く市民に周知したらよいと思いました。

大東憲二 教授（工学部 都市環境デザイン学科）

東海テレビ「スーパーニュース」
『“ヘドロ”をなくせ その秘策は…～堀川のキセキ～』に出演

2月11日（木）、東海テレビ「スーパーニュース」（月～金17:30−19:00放送）の特集コーナー「“ヘドロ”をなくせ その秘策は・・・　～堀川のキセキ～」に大東教授と研究室の学生たちが出演しました。

ゴミが次々と捨てられ、生活排水が流され、ヘドロが溜まりドロドロになってしまった堀川。木曽川からの導水やクレーンによるヘドロの浚渫作業などにより、きれいになりつつあるものの現在でも1m近くのヘドロが溜まっているそうです。その堀川をきれいにしよう、という試みが名古屋市では行われており、都市の河川環境などの研究をする大東教授も堀川のヘドロを分析しています。

この撮影日は、学生たちと地域の方々とで“魔法のだんご”と呼ばれる、汚泥を分解する働きのある微生物を集めたもの（EM）を堀川に投げ入れ、効果を期待。しかし、約1ヵ月後の撮影日、学生たちによる水質検査では変化は見られず・・・。大東教授は「EMを投げ入れるのは、流れている川。なかなか効果ははっきり出てこない。EMが定着し、分解を始めるには3年以上かかると言われる。堀川は厳しい時期を乗り越えてここまで来たから、ここはもっときれいにできる」と締めくくりました。

トコトン先生
大活躍!

五島利兵衛 教授（工学部 建築学科） DUP新聞部投稿記事

最終講義より

1月29日(金)、五島教授の最終講義が白水キャンパス4号館4410講義室で行われました。最終講義には 100 人を超える在学生・卒業生が参加。五島教授の最終講義を熱心に受講しました。今回の講義課題は五島教授が35年追い続けた「ケルン大聖堂」について。講義はケルンの場所、歴史的背景から始まり、ゴシック建築の施工法や構造について展開されました。特に梁やフリーハンド工法については、過去の実験データも含め説明されました。講義終了後にはみんなから花束が贈られ、その後懇親会も行われました。五島教授は何度も現地調査に行かれており現地の大学への留学もされました。また、国際的な学術交流も盛んに行われ、本学の国際交流に深く貢献されたと思います。学生たちにも非常に親しみやすい先生として慕われており、今回の定年退職にあたり惜しむ声が多く聞かれました。五島教授のご健康と一層のご活躍を期待いたします。

笠嶋 泰 教授（工学部 建築学科）

笠嶋教授が発起人「名古屋まちづくり縁・カレッジ」キックオフイベント開催

2月28日（日）に金山の名古屋都市センターで、「名古屋まちづくり縁・カレッジ」が開催されました。「名古屋まちづくり縁・カレッジ」とは、まちづくりの交流拠点を目指し活動する（財）名古屋都市センターがまちづくり活動を実践する大学・大学人と連携して、専門的な知見、そして学生たちのフレッシュなアイデアや活力を活用しながら、地域のまちづくり活動を一層推し進めるためのネットワークを共同して設立するというものです。

その設立を宣言するためのキックオフイベントに、本学の他、愛知工業大学、椙山女学園大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋学院大学、名城大学など建築やまちづくりに携わる学生・教員およそ90人が集まりました。

本学は川戸和英教授（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）、大原直人君（情報学部 情報学科 メディアデザイン専攻4年）、犬飼貴之さん、杉山博紀さん、山本篤志さん（大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻1年）、そして発起人である笠嶋教授の6人が参加し、各グループの取り組みをポスターセッション。相互に情報交換し交流を深めていました。会場には、河村たかし名古屋市長が、地域の取り組みを応援するために来場し、各グループを見学。本学は建築学科が、実際に存在する「街の問題」を授業の課題として取り上げ、デザイン提案という形で地域にフィードバックする取り組み「D-lerning」や、ミラノ工科大学と共同で実施している「C-scape」を、また、情報デザイン学科 メディアデザイン専攻が商店街を活性化するためのポスター制作「D-lerning」を河村市長に紹介しました。

河村市長からは「名古屋は全部壊してまったでいかんわ、ちゃんと残しながらつくって欲しいがねぇ」、「笠寺はいいまちだでよ、活性化するように頑張ってちょーよ」とコメントをいただきました。

▲大原君㊧ 川戸教授㊥

▲笠嶋教授

ポスターセッション終了後は、河村市長の挨拶でキックオフイベントが始まり、千葉県柏市で進められている公民学連携の「柏の葉国際キャンパス構想」について、柏の葉アーバンデザインセンターの前田英寿さんが基調講演。柏市での公民学連携の事例報告をしました。その後は、縁カレッジに参加しているグループの名古屋における事例報告がありました。

そして最後に、笠嶋教授が発起人を代表して、設立宣言を行い閉会となりました。閉会後の交流会でも、活発な意見交換が行われていました。

宇野 享 教授（工学部 建築学科）

「名古屋市都市景観賞」「千葉市優秀建築賞」、それぞれ受賞

宇野教授が企画した「パラサイト・シネマ」が、名古屋市都市景観賞(まちなみ部門)を受賞しました。

この賞は、個性豊かな、誇りと愛着のもてるまちをめざして、名古屋の優れた都市景観を表彰する制度で、「まちの景観づくりに貢献している」と思う、魅力ある建築物やイベントなどに贈られます。また、同じく宇野教授が設計した「幕張インターナショナルスクール」は、千葉市優秀建築賞(一般建築部門)を受賞しました。

パラサイト・シネマ　活動概要
- 夜間閉鎖された地下街への出入口階段を座席に捉え、前面の壁に映画を投影
- 名古屋城の壁面やミッドランドスクエアをはじめ、海外でも多くの招待実践
- 投影する映像の公募による若手アーティストの発掘やコンテンツ産業の育成

トコトン先生
大活躍!

加藤和雄 客員教授（工学部 建築学科）

「第73回 MESH 環境デザインセミナー」開催

加藤客員教授が会長を務める「MESH（環境提案協会−中部）」主催「MESH 環境デザインセミナー」が、11月16日(月)にウインクあいちで開かれました。

このセミナーは、中部地区において、インテリア・建築・環境・プロダクトなどを学ぶ空間デザイン系の学生と若いデザイナーを主たる対象として、毎回日本を代表する空間デザイナーが講演します。

空間デザインを「行為」「空間」「意味」等の多領域の視点から議論する場となること、さらには、講師や MESH 会員、受講者との出会いを通じ、「人間力」「問題発見力」「問題解決力」「空間表現力」「提案力」などを、学生とともに考え、対話する場であることが本セミナーの開催趣旨です。

加藤客員教授は本セミナーを受講した学生の中から、この地域の、また日本のトップレベルの「コンセプター」「プランナー」「デザイナー」が輩出されることを切に願っています。

光田 恵 准教授（工学部 建築学科）

「第9回におい研究交流会」開催

2月18日(木)本学で、におい・かおり研究センター主催の「におい研究交流会」が開催されました。毎年開催されている「におい研究交流会」も今年で9回目。光田准教授を中心に1年間取り組んできた研究内容を紹介し、議論を深めました。

今年度は、「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成事業」も共催ということで、「におい・かおりの測定と評価」についての特別講演も実施。大阪大学大学院の竹村明久さんによる「嗅覚に基づく臭気評価のための実験手法に関する基礎的研究」の発表や、有限会社ピコデバイス代表取締役 名古屋工業大学元教授 津田孝雄さんによる「匂いと香りの濃縮測定法と適用例」の紹介なども行われました。

また、パネルディスカッション「環境たばこ煙のにおいの評価と対策」では、寺澤悠洋君(工学部 建築学科4年)が「たばこ臭の感覚評価」と題し発表。1年間の研究をまとめ上げました。

▲光田准教授㊨

酒井陽一 教授（教養部 化学教室）

「中性子ビーム利用基礎講習会」で講演

12月18日(金)、大阪科学技術センターで開かれた「中性子ビーム利用基礎講習会」で酒井陽一教授が講演しました。

この講習会は、中性子産業利用推進協議会が主催、中性子ビーム利用を計画している方、利用し始めの方を対象として、中性子ビーム利用実験の基礎的事項について説明し、その後の実験に役立ててもらうことを目的として東京と大阪で開催されたもの。酒井教授は、「即発ガンマ線分析」をテーマに講演しました。

髙山 努 准教授（教養部 化学教室）

「国際化学オリンピック」準備問題の日本語翻訳に協力!

国際化学オリンピックは、1968年に東欧3ヵ国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に１度開催される「化学」の国際大会です。1984年にアメリカ合衆国が参加して以来、急激に参加国が増え、今では例年約60ヶ国から200人を超える高校生が参加。日本は2003年に初参加、以来毎年4名の代表生徒が参加し好成績を収めています。

その国際化学オリンピックの準備問題「定性分析による高分子と有機小分子の同定」の日本語翻訳に髙山准教授が協力しました。髙山准教授が協力するのは今回で3年目。今年開催される第 42 回は東京で開催される「日本大会」。70を超える国が参加し、300名ほどの高校生が世界各地から集う化学の祭典となることが予想されます。なお、日本代表は現在選考中で、全国3078名のエントリーから選りすぐられた4名が最終的に決定されます。果たして、本番で日本代表は金メダルを取れるのか?

髙山准教授も期待しています。

田中秀和 教授（情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻）

「中小企業丸ごと相談フェア」相談員

仕事や日常生活の中でいろいろな問題・不安を持った中小企業経営者の方々を対象に開催された相談会「中小企業丸ごと相談フェア」が、1月27日(水)岐阜のマーサ21で開かれ、田中教授が相談員として参加しました。この相談会は、岐阜県士業連絡協議会主催で行われ、岐阜県内の12士業の専門家が無料で相談に応じるもの。

田中教授は、社団法人 日本技術士会中部支部岐阜県技術士会の代表幹事として、整備や自然、生活面で安全・安心についての相談に応じました。

トコトン先生大活躍!

横山弥生 教授（情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻）

「SIGGRAPH ASIA2009」Art Galleryで入選

CG関係者、あるいは興味がある人ならだれでも知っている「SIGGRAPH」が昨年からアジアでも開催されることとなり、今年は12月16日（水）から19日（土）に横浜のパシフィコ横浜で開かれました。

SIGGRAPHは、コンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術を中心としたデジタルメディア、デジタルコンテンツ分野を代表する国際カンファレンス&展示会です。

先端・必須技術を網羅する当カンファレンス&展示会には国内外から研究者、開発者、クリエイター、アーチスト、プロデューサー、コンピュータグラフィクスおよびインタラクティブ技術プロバイダーなどおよそ5000人が来場しました。

横山教授の入選作品、テーマは「Ballerina」。螺旋構造を取り入れた位相形態にアフィン変換をかけ、バレリーナの衣装をイメージした動きを表現。作品のフレーム下方にはLED。刻々と光の色が変わっていく様は、舞台のスポットライトをイメージされています。

今回の出品は5点。今年のArt Galleryには国内外からおよそ500点の作品の応募があり、入選したのは20点。25倍という狭き門でした。

鷲見哲也 准教授（工学部 都市環境デザイン学科）

「名古屋市区政協力委員大会」で基調講演!

11月10日（火）、名古屋市公会堂で「名古屋市区政協力委員大会」が開かれました。出席者はおよそ1500人。

その大会で鷲見准教授は、「水害に向き合う私たちの"まち"」と題して、高潮やゲリラ豪雨における「過去・将来リスク」「公助の限界」「自助・共助のための備え」などについて、60分間基調講演しました。出席者のほとんどは伊勢湾台風経験者。皆で伊勢湾台風の災害を振り返るとともに、それ以上の台風が来たときの想定についてこの地域で検討されている情報を紹介しました。また、ゲリラ豪雨は役所による避難勧告や救助が間に合わない。そのために、家庭や地域での自主防災に必要な活動や情報収集の重要性について訴えました。

佐藤壮一郎 准教授（教養部 保健体育教室／ハンドボール部顧問）

「やる気高める ハンドボール指導法」を伝える

2月12日（金）から14日（日）までの3日間、富山市総合体育館で富山市教育委員会などによるハンドボール指導者招聘事業が開かれ、市内の小・中学・一般の指導者およそ40人が集まりました。

その初日に佐藤准教授が講師を担当。「選手は練習の意味を理解し、目標や競争相手を設定することでやる気が高まる」と話しました。

なお、この内容は、翌日の富山新聞紙面で紹介されました。

▲富山新聞（2月13日）

三原昌平 教授（情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻）

「プロダクトデザインとしての茶室」tea & mind展（学内研究助成プロジェクト）

3月10日（水）～15日（月）、国際デザインセンターで「プロダクトデザインとしての茶室 tea & mind展」が開催されました。

このイベントは、三原教授が茶室・会場デザインから撮影、リーフレット・ポスター制作までを総プロデュース。もし今日、千利休が生きていたらどのような茶室を作るだろうかと想像しながら新しい茶室制作を試みたプロジェクトです。その過程の中で、さらに利休についての理解が深まることを期待して…。

豪華絢爛なお茶会を嫌い、できるだけ質素で無を目指した利休の精神と現代性の対峙。400年を経て、新しく私たちの目の前に表れた素材を取り入れ、海外からの思想に大きな関心を持つ事は間違いないでしょう。

今回は三つの茶室と、新しい茶席をデザイン、制作し展示。会場までの通路を露地と見立て、一番奥のお茶席をメインステージとするなど、会場デザインに最も力が注がれました。

また、現代における茶道は若い女性によるお点前を最も重要なものと結論付けており、今回は加賀奈穂子さん（1年）がお点前を担当。280人（6日間合計）の来場者を迎えました。

▲タイの留学生が来場したシーン

やるじゃんトピックス!!

泰日工業大学（TNI）で就職関係の授業を実施

経済産業省の外郭団体JODC（財団法人海外貿易開発協会）が行う「産業人材裾野拡大事業」の講師として井上茂樹副学長とキャリア支援室の松居正夫キャリアアドバイザーが推薦を受け、審査の結果採択され、井上副学長が主に前半1月、松居キャリアアドバイザーが主に後半2月にタイ・バンコクに滞在し、本学と学術交流協定を結んでいる泰日工業大学（TNI）で就職支援のための授業やコンサルティングを行ってきました。

JODCが行う「産業人材裾野拡大事業」は、日本企業等への就職を志望する海外人材の裾野を拡大することを目的として、（特にASEAN地域の）現地高等教育機関と連携し、日本企業文化・ビジネス日本語等の普及啓発、現地大学生と日系企業とのマッチング等を一体的に実施する事業となっています。

TNIは、30年～40年前に日本に留学し、タイ国内各方面で活躍している各界の人達が中心となり、また社団法人日タイ経済協力協会や日本の経済界等各方面の支援を受けて3年前に設立された工業大学で、間もなく完成年度を迎えることになり4年生の就職が焦眉の急となってきています。

TNIは設立の経緯から分かるように日本との関係を重視しており、日本語を必修科目としている等の特徴もあり、学生の多くは日系企業への就職を希望しており、日本企業等への就職を志望する海外人材の裾野を拡大するとするJODCの「産業人材裾野拡大事業」の対象として相応しい大学として選ばれたものと思われます。

▲松居キャリアアドバイザー

昨年10月にTNIクリサダ学長が本学を訪問された際に本学の就職支援システムに興味を持たれ、本学の就職実績を高く評価された背景も手伝い、JODC事業の講師として学術交流協定を結んでいる本学に白羽の矢が立ったものと考えています。

授業は全てタイ語通訳付きの日本語で行われ、3年生全員対象の授業ではJODCの事業目的に沿い「日本の企業文化講座」と題して、「日本企業の特徴」、「日本における採用・就職活動」、「日本企業で求められる勤務マナー」、「トヨタ生産方式（TPS）」等の内容の講義、グループ別授業では「自己分析のしかた」、「面接のしかた」と題してセミナ形式で実践的な授業が行われました。特にその場で考え、自分で行動するセミナ形式のグループ授業はTNI学生には手法が新鮮に映り、学生たちには好評であったようです。

▲井上副学長

また、就職関係のスタッフとのミーティングでは日本とタイの職業観や就職環境の違いについても意見交換が行われ、TNIにとって有用なアドバイスが数多くあったようで、TNI学生の日系企業への就職を始め、今回の支援がTNIの発展に役立つことを願っています。

工科系コンソーシアムの国際交流活動「東アジア経済と人材教育」講演会

▲水澤副学長

本学の戦略的大学等連携室は、3月9日（火）名古屋国際センターで、名古屋工業大学、愛知工業大学、豊田工業高等専門学校と本学の4校で構成する工科系コンソーシアムの国際交流活動の一環として、「東アジア経済と人材教育」講演会を開催。およそ50人の参加者を集めました。

講演会では、本学 澤岡昭学長の開会挨拶に続き、福井県立大学 坂田幹男教授による基調講演「東アジアの地域統合と日本」が行われ、歴史的変化を交えて東アジア地域の連携の重要さをお話いただきました。

続いて、社団法人 日・タイ経済協力協会顧問 佐藤正文氏の「日・タイのものづくりと人づくり」と題した国際交流活動報告や、海外人材を積極的に活用し東アジア地域を対象に活躍する情報技術企業に成長した株式会社エスワイシステム代表取締役 鈴木裕紀氏の「活躍する海外人材」と題した苦労話が提供されました。

その後、本学と学術交流協定を結んでいる泰日工業大学の副学長Dr.Bandhit Rojarayanont氏が「泰日工業大学と日本」と題して、日本との架け橋となるタイ技術者の育成・教育活動と日本の大学との協力関係について報告されました。

また、愛知工業大学の留学生黄暁氏より日本での生活環境の報告、工科系コンソーシアムの代表校である名古屋工業大学より工科系コンソーシアムの活動状況についてが報告され、最後は本学 水澤富作副学長によるまとめの挨拶で締めくくりました。